

温室効果ガス排出量 検証報告書

2022 年 12 月 20 日

ホッカンホールディングス株式会社 様

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 平川 雅宏



1. 検証の対象及び目的

ホッカンホールディングス株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における排出量算定結果「2021 年度算定報告書」（以下「算定報告書」という。）に記載の 2021 年度（2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで）の以下の温室効果ガス（GHG）排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、限定的保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ 1 温室効果ガス排出量

算定対象においてエネルギーの使用に伴って直接的に排出される CO₂ 排出量

2) スコープ 2 温室効果ガス排出量

算定対象において電力、熱等の使用に伴って間接的に排出される CO₂ 排出量

3) スコープ 3 温室効果ガス排出量

事業者の事業活動におけるスコープ 3 カテゴリ 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 12^{※2}において排出される CO₂ 排出量

検証の目的は、算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成し GHG 排出量情報を報告する責任は事業者にあり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載された GHG 排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き

当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載の GHG 排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関わる主な担当者へのインタビュー
- GHG 排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる根拠となる資料の確認

3. 検証の結論

算定報告書に記載された 2021 年度の温室効果ガス排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は発見されなかった。

検証された温室効果ガス排出量 (t-CO ₂ e)	
スコープ 1	124,971
スコープ 2 ^{※4}	151,927
スコープ 3	962,055
スコープ 3 内訳	
カテゴリ 1	378,016
カテゴリ 2	26,545
カテゴリ 3	47,083
カテゴリ 4	18,883
カテゴリ 5	2,989
カテゴリ 6	451
カテゴリ 7	1,502
カテゴリ 10	302,068
カテゴリ 11	40,747
カテゴリ 12	143,771

NOTE:

- ※1：北海製罐(株) (HC)、(株)日本キャンパック (NCP)、東都成型(株) (TO)、(株)コスメサイエンス (CS)、くじらい乳業(株) (くじらい)、オーエスマシナリー(株) (OSM)、KE・OS マシナリー(株) (KEOS)、(株)真喜食品(真喜)、PT. ホッカン・デルタパック・インダストリ (HDI)、日本キャンパック・ベトナム (NCPVN)、PT. ホッカン・インドネシア (HI)
- ※2：スコープ 3 のカテゴリ 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 12 【算定対象事業所】
- カテゴリ 1 (購入した製品・サービス)：原材料の調達、上水・工業用水、及び、主要な間接経費を対象【全事業所】
 - カテゴリ 2 (資本財)：設備投資の固定資産を対象【全事業所】
 - カテゴリ 3 (スコープ 1, 2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動)：算定対象で使用した燃料、電力、熱等を対象【全事業所】
 - カテゴリ 4 (輸送、配送(上流))：主要原材料の調達物流、横持物流、出荷物流(自社が荷主)を対象【全事業所】
 - カテゴリ 5 (事業から出る廃棄物)：事業者から出る産業廃棄物を対象【全事業所】
 - カテゴリ 6 (出張)：事業者の従業員を対象【全事業所】
 - カテゴリ 7 (雇用者の通勤)：事業者の従業員を対象【全事業所】
 - カテゴリ 10 (販売した製品の加工)：中間製品の downstream の事業者における加工を対象【HC, TO, HDI】
 - カテゴリ 11 (販売した製品の使用)：製品が使用されることに伴う排出を対象【OSM, KEOS】
 - カテゴリ 12 (販売した製品の廃棄)：製品本体、製品に付す容器包装が対象【HC, OSM, KEOS, TO, HDI, HI】
- ※3：スコープ 1, 2, 3 の算定方法：「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.4)」、「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (ver.3.2)」、及び、算定対象が作成した「GHG 算定シート」
- ※4：電力の排出係数：国内は電気事業者別調整後排出係数、海外は「IGES List of Grid Emission Factors ver11.0(Sep 2022)」 SummaryEFfromCDM シートの Operating Margin EF(Average)を使用

以上